



「わたし しか」から「共有」へ

パソコンは、今や、1つのオフィスに複数あることが多くなっています。そして、そのパソコン同士を、ネットワーク(LAN)接続している姿も多く見られます。

せっかくパソコン同士が結ばれているのですから、それぞれのパソコンに保管されているデータも、お互いで利用できるようにしてみませんか。

データの保管場所 ~Before~

多くのソフトウェアは、そのソフトで作成されたデータの保管場所を、インストールされたパソコンの中に設定するように仕掛けています。

～保管場所の例～

- ・マイドキュメント内に作られたフォルダ
- ・プログラムが入っているフォルダの配下

1台のパソコンのみでお使いでしたら、これでも問題はありません。

では、仮に、同じCADソフトを3台のパソコンで同時に使用していることを想定してみましょう。

ある現場の図面はAのPCにしか入っていない、最新の部品ファイルはBのPCにしか入っていない、CのPCにしか入っていない図面を出したいのに、担当者がPCのパスワードをかけたまま外出してしまった・・・

こういったことは、ありませんでしたしょうか？CADに限らず、WordやExcelの文書でも。



「共有」という考え方

1台のプリンターを何台ものパソコンで共同利用していませんか。データも同じです。誰もが利用できる、統一された保管場所があれば、みんなで利用することができます。

誰かの作業を肩代わりしたり、優れた書式をコピーさせてもらったり・・・「誰だれしか分からない」ではなく、「みんなで創り上げる」スタイルに、変化させることが出来るかも知れません。

情報の ムリ・ムダ・ムラ を無くす

<ムリ>

数メガバイト以上もあるようなデータを、フロッピーディスクやUSBメモリで、それぞれのパソコンにコピーしていませんか？

<ムダ>

「あれ、この文書、誰かが以前作っていたよね」と気付いていながら、探すのが面倒だから新たに作ってしまえ！といったことはありませんか？

<ムラ>

ムリとムダを繰り返した結果、多種多様なデータや文書が混在して、作業時間の増大や品質のバラつきが目立ってきてはいませんか？

データ共有で、この3つの“ム”を無くして、効率良く作業を進めましょう。

データ共有の決め手 「NAS」

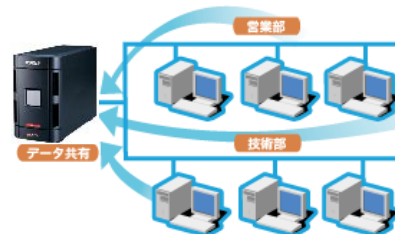
かつては、データの共有と言えば、高価なサーバーの導入や、1台のパソコンを親機にした簡易的なデータ共有が主流でした。

これからは、パソコンより安価で、かつ、サーバー機能の一部が搭載された「NAS」(ナス)がおすすめです。弁当箱並みの小さな箱が、データ共有化の要になります。

見た目は、データバックアップ用の「外付けハードディスク」ですが、機能は充実。外出先から社内のデータにアクセスできる、モバイル機能を搭載したものであります。

導入させて頂いたお客様にも、御好評を頂いております。是非とも、ご検討ください。

データの保管場所 ~After~



写真の商品は
バックアップロー
LS-WHGL/R1

小型ながら
(W99×H163×D221mm)
・二重化ディスク
・モバイル機能
・アクセス権限設定
などを備えています。

編集後記 「…しか」の後には打ち消しの言葉が続きます。限定され、しかも打ち消され、あまり良い感じの言葉ではありません。数年前、「…特別な Only One」という歌詞が評価された歌謡曲がありました。「Only One 企業を目指す」と言った掛け声もよく聞きました。自分たちに“しか”出来ない事を実現させるために、負の“しか”を排除し、みんなの知恵を結集する。共有化の目的は、ここにあります。まあ、今流行りの“しか” = 「地デジカ」は、かわいいヤツですが。(郡司)